

文部科学省における就職氷河期世代の国家公務員中途採用の方針について

1 文部科学省における採用の全体像

文部科学省においては、国家公務員中途採用者選考試験（就職氷河期世代）を活用し、令和5年度及び6年度の2年間で1年当たり1名の採用を目指す。加えて、既存の経験者採用等の取組も着実に継続する（参考：文部科学省において、平成28年度から30年度の3年間に実施した既存の経験者採用等の取組で採用した35歳から49歳の人数は5名）。

2 文部科学省が求める人材像・職種

就職氷河期世代の国家公務員中途採用に当たって文部科学省が求める人材像としては、本申合せの「(就職氷河期世代試験について) 3」の(1)～(3)に掲げるような方に加え、以下のような方を想定している。

- (1) 文部科学省が所掌する、教育、科学技術・学術、文化、スポーツの行政分野の着実な実施に前向きに取り組む意欲や能力のある方
- (2) ITに関して知識や能力を有する方

3 文部科学省における研修等の方針

採用された就職氷河期世代の方が採用後、公務に円滑に取り組めるよう、職員の希望や能力等を踏まえつつ、文部科学省においては例えば、以下のような研修や育成の機会を設けることとする。

(1) 初任研修【採用1年目に実施】

大臣官房人事課において、他の採用試験からの新規採用者と合同で、服務や公務員倫理等の行政官としての基本的な心構えを身に付けさせ、文部科学省職員として必要な基礎的知識を付与するため、数日間の研修を実施する。また、公文書管理等の基礎を身に付けさせるための他機関主催の研修を受講させる。

(2) 階層別研修【採用3年目、昇任時等に実施】

大臣官房人事課において、採用3年目のフォローアップ研修のほか、昇任時等には各役職段階において求められる役割の理解と必要とされる能力の向上を図るための研修を実施する。